



Servas Japan Tohoku

支部ニュース

No.81



支部長 新年の挨拶

トラベラー報告 (1)、(2)

寄稿 1

モンゴルの学校に備品配布が終わり大喜びの子供たちの写真が届きました！ S.M (S市)

寄稿 2 気仙沼 年末の餅つきと近況報告とお願い N.T (S市)

事務局から

- 1 新会員紹介
- 2 支部総会案内

新年のごあいさつ！

おにのおめん



N.T (N市)

皆さん いかがお過ごしですか？ Tです。あけましておめでとうございます。年末の支部ニュースからもう数ヶ月たってしまいました。今年も大雪の便りが多く、皆さん寒さをこらえてお過ごしのことと思います。弥彦は昨年より今のところは雪が少なく助かっています。新しい政権で、期待を込めて、円安と株高が進んでいます。日本の将来を決める日々が毎日動いています。よく見ていきたいものです。

最近読んだ本の中から『死の淵を見た男』という表題で、福島原発の吉田所長以下、69名の決死隊にインタビューした本がありました。電力の現場作業員の様子がわかり、チェルノブイリの10倍以上となりえた被害を食い止め、日本を3分割するかもしれなかったという危機だったことを知りました。今はその原発はどうなっているのでしょうか？年末にお歳暮を交換した浪江町のYさんははまだ二本松にいます。被災地では、ストレスがたまっているのではないのでしょうか？

さて、どのような時であっても、会員の『出会い、ふれあい、磨きあい』をしていきたいと思っています。T.Wさんも再入会ということで、大変喜んでます。またH.Mさんという私にとってはN薬科大学で、一緒にボランティアをしている女性が新入会員になりました。S.Mさんからも

勧誘していただいたおかげです。皆でできることで協力していきたいものです。
5月の支部総会での再会を楽しみにしています。

トラベラー報告（1）

T.N（F市）

J.W. 男性 51歳 ドイツ人 物理学者 2月2日～3日 一泊

高湯温泉で入浴。たまたま他の家族が子どもと入ってくる。除染の工事現場と仮設住宅の見学を車の中から実施。日本には何度も来ている。今回は出張で、三沢に在住して六ヶ所村に通っているとのこと。国際情勢にも詳しい。2/8には帰国の予定。

トラベラー報告（2）

夢を叶えたロシアの留学生！

S.M（S市）

極東ロシアのナホトカから留学生のL.M.20歳が我が家にやって来ました。彼女は現在、ナホトカの大学の日本語科の3年生です。今年の1月9日から半年、仙台の語学専門学校に日本語を上達したいと休学して来仙しました。

今から6年前、14歳のLはお父さんに連れられて我が家に遊びに来ました。英語も日本語もできない少女はただじっと父親の隣に座っていました。私の夫と仕事を通しての知り合いである父親は「日本は素晴らしい国です。娘にぜひ日本の教育を受けさせたい!」と言いました。

しかしその後、ロシアの政治はめまぐるしく変化し、中古の車を日本から買って、ロシアで売る仕事に高額な税金が課せられることになりました。父親は失業してしまい付き合いはなくなりました。今年の夏、突然Lから「ホストファミリーになっていただけませんか」とメールが届きました。

お父さんの傍らに黙って座っていた少女Lは「日本で勉強したい!」希望をずっと持ち続け大好きな日本について留学生としてやってきたのです。夢が実現したのです! 次回の支部ニュースで彼女の様子をまたお知らせします。



2月4日支部会員T.Aさん夫妻の経営する【レストラン】を訪問するLさん

寄稿 1

モンゴルの学校に備品配布が終わり大喜びの子供たちの写真が届きました!

S.M (S市)

東北支部ニュース80号に「学校備品 モンゴルへ」という新聞記事を掲載しました。その後のことをお知らせいたします。

モンゴル・サーバスただ一人の会員であるHさんが昨年11月9日に仙台に来てくれました。宮城県黒川郡大郷町の廃校になる小学校から寄贈される学校備品の「コンテナ詰め」の現場に立ち会うためです。中国大陸を通る陸路での輸送もあり、モンゴルに着くまでには時間がたくさん掛かるものと覚悟していました。しかし幸いなことに

12月7日には無事、コンテナ二つがウランバートルに着きました。

Hさんは現在、モンゴル・文部省の教育副次官の職にあり、どの学校がどんな備品を必要としているかを良く把握していました。2013年の1月の-30度、-40度の極寒の中で7つの学校と教師育成センターの一カ所に全てを配ることができました。非常に大変な作業だったはずですが子供たちの喜ぶ顔が見たくて、Hさんは頑張ったことでしょう。

モンゴルは人口は約200万人と少ないですが、今回配られた学校備品は首都ウランバートルから300キロ、500キロと遠い所にある小学校・中学校も選ばれ、一番遠い所で1、300キロも離れていて電気も水道もない学校に配られました。モンゴルの国土の広さを改めて実感しました。教師と子供たちの喜びの様子を伝える写真がたくさん届きました、その中の何枚かを選んでみました。どうぞご覧ください

極寒の中に立つ教師育成センターの全景



ピアノの伴奏で歌を唱っています。



グランドピアノは教師育成センターに。海外に留学したりして音楽教育に力のある教師がいます。しかし楽器が無くて教師の育成プログラムがこれまでできなかったのですが、やっと念願が叶いました。



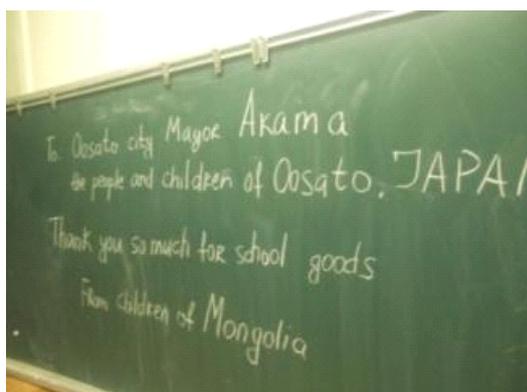
どこの国でも子供たちは歌が大好きですね。特にモンゴルの孤児の子供たちは親たちと話したいという想いが、唱うことで少しは満たされるのか歌の上手な子どもが多いです。



跳び箱、マット、平行棒、ボールなどスポーツ用具は、寮生活を送る子供たちに大変喜ばれました。親元を離れて寮生活をしなければならない子供たちが多いのです。放課後にスポーツ用具で楽しい時間を作っています。



子どもの数より椅子・机が少ない学校が多く、今までは長い机に3人座りをしていました。3人掛けは移動の時にとても不便です。
一人一つの椅子や机をもらって子供たちは移動がとても楽になりました。



大きな黒板は教師たちが子供たちに教えるときに非常に効率的になったそうです。

顕微鏡を初めて見る子供たちは、まず自分の手のひらを観察しているところです。





先生にHさんが工具を渡しているところ。



技術の科目があるのですが、工具や道具が充分にありませんでした。日本製の精巧な工具を使って曲線に切ることが教えられます。家の中を快適にするためにもものを作ることや修理をすることを教えられる。

寄稿1「モンゴル」について

モンゴル国（モンゴルこく、モンゴル語：Монгол Улс）、通称モンゴルは、東アジア北部に位置する国家。東と南を中華人民共和国（中国）・内モンゴル自治区と、西を中国・新疆ウイグル自治区と、北をロシア連邦とそれぞれ接する内陸国。首都はウランバートル。人口は280万人（2011年統計）



モンゴル民族の居住地域であるモンゴル高原のうち、清国支配下において中国語で外蒙古（そともうこ）と呼ばれたゴビ砂漠以北の一带にほぼ該当する領域を国土とする。これに対し、南部の一带が内蒙古で、現在は中国領となっており、「蒙古族」（中国国籍のモンゴル人）のための「民族区域自治」単位として内モンゴル自治区等が置かれている。政府は放牧生活から定住生活を勧めており、世界的に見ても都市への人口集中が高い国である。

- Wikipedia より転載

首都ウランバートルへは航空券最安値で54000円（※燃油サーチャージ除く）、5日間で90000円～110000円程度（格安ツアー）のようです。年平均気温マイナス1～2度の冷涼なステップ気候の大草原に立つのも良いかと。現在、サーバスメンバーは一人だけです。

寄稿2

気仙沼 年末の餅つき と近況報告とお願い

N.T (S市)

先月号でお知らせいたしました12月23日のお餅つきについて報告します。プレゼントと餅つきの道具を準備して一台は満杯。もう一台に若者と今年の餅つきの杵取りメンバーに新メンバーを含め総勢7名で出かけました。白石市は小雪の舞う朝に出発。東北道を北上して築館から東に。2時間半で現地に到着。仮設住宅の脇にカマドを3基、臼2基を据え付け、O氏宅からの薪に点火して始めました。

作業を開始すると、自宅にいた子供たちが集まり始めたのでプレゼントを渡しました。恥ずかしいのかあまり喜んでいる様子ではなかったが、もらった袋はすぐに家に持って行って喜んでいと親御さんから聞いてひとまずホッとしました。そのうちに部活動から戻った中学生にプレゼントを渡すと、とても喜んでくれひと安心でした。



当日は、本吉町へボランティアに来ていた東京の方が二人、O氏とともに手伝いに来てくれました。さらに嬉しいことには、子供たちの保護者と一緒に餅つきに参加してくれたことです。しかも、手芸グループの手作り豚汁もあって、とても楽しいひと時を過ごすことができました。持参した45キロの餅米を10回に分けて蒸し、借りてきた餅練機で練ってから臼で搗き、きな粉餅、おしるこにして仮設住宅全ての家と隣接するコミュニティセンターで集会していた近所の方々、近隣の2箇所の仮設住宅に運びました。お父さんたちが搗き、子供たちが全戸に運んでくれるなどして手伝ってくれたおかげで、終了時刻の3時には撤収作業を開始できました。

この日は寒波のせいで、帰り道の松島からの海岸沿いは豪雪になり渋滞に巻き込まれながらも6時半には白石に到着しました。



24年(2012年)1月27日(木曜日)

気仙沼・小泉地区集団移転

住民団体が会社設立

東日本大震災で集団移転を目指す気仙沼市本吉町小泉地区の住民団体「小泉地区の明日を考える会」(及川茂昭会長)が、移転先の街並みの景観を統一化するため「街づくり協定」を運用する株式会社をつくった。住宅の建設コスト低減も図る。市によると、集団移転の住民組織が会社を設立するケースは珍しい。

25日の会合で報告され、高台移転を目指している。づくり協定をまとめる計た。会社名は住民団体と同じ。これまで、移転先の住宅画。新会社は協定の運用を担い、統一感のある街並の明日を考える会」とし、ことを大筋で合意して、おみが保全されるよう管理する。住民有志が出資。社長も及川会長が兼任する。気仙沼市階上地区に設置する同会の事務所に本社を置く。住民団体は小泉地区内の

景観統一、コストも削減

統一した家を作るため、希望する住民に対しては住宅の設計や測量、建築などを請け負う。個々に家を建てるのではなく、まとめて建設することで、資材調達などのコスト低減を図る狙いがあり、会社組織による運営が最適と判断した。将来は地区内に小売店などもある。及川社長は「統一感のある街並みになれば景観も美しくなり、地域の魅力も生まれる。みんなで一緒に街づくりを進めていきたい」と話す。

住民団体「考える会」は昨年6月に設立。一戸建てを希望する約90世帯と災害公営住宅の入居を希望する約30世帯が集団移転を目指している。ことし4月には屋根の色などを統一した伊達市諏訪野の団地を視察した。

これまで支援してきました小泉地区の集団移転の話が少しずつ進んでおり、この仮設住宅に住んでいる方が実行委員長となって活動されていることも知りました。(河北新報の記事)

具体的な計画が出来上がれば、支援策も見えてくるものと考えています。

◎ 近況報告とお願い

年が明けて、2月8日に気仙沼を訪問しました。

手芸グループは思い思いに作品をつくり楽しんでいました。そこでもお願いです。これまでと同じですが、

- ① 端切れで結構です。布地をください。
- ② 半端な糸で結構です。ください。寒い季節が続いています。みなさん帽子を編んで使っています。
- ③ 和服生地をください。使わなくなった和服のままで良いです。デザインや質がよいので小物を作るのに喜ばれています。
- ④ 昔の布団の側生地(綿でデザイン性に優れております。捨てる前に綿を取り出して布だけに洗っていただくと、とても嬉しい。)

送り先は、私あてです。現地には集積場所がないので、こちらで現地の要望にあわせて運びます。

同日、久しぶりに小泉中学校公民館(公民館の仮事務所)と校地内の仮設住宅を訪問しました。久しぶりに仮設

住宅の会長さんとお会いし、2年前の話をすることがありました。被災から2年が経過し、ようやく集団移転の話を伺うことができました。小泉地区は3箇所の集団移転地が決まり、大まかな団地計画案が出されて、住民も了承して少しずつ前進し始めたそうです。一軒あたり平均2~3台の自家用車を持っているので、土地の広さははおおよそ200坪になるのだそうです。農家からすればとても狭い割り当てになりますが、ようやく一歩すすんだかなという感想だそうです。また会長さんの地区は11軒と少ない地区なので、あと2年程度で完成する予定だということ、多少表情も和らいで見えました。しかし、以前の集落の様子を伺うと、「以前は地域内に10万本の水仙を植えていて、水仙まつりも実施したんだけど、津波で全て流されてしまった」と懐かしそうに話していました。

そこで、お願いです。夏になりましたら水仙の球根を送ってください。私の地域内で畑を借りて

10万本の球根を2～3年かけて育てたいと考えています。(条件等が揃いましたら再度お願いします。)

事務局から

① 再入会会員と新会員のお知らせ

再入会 T.Wさん (S市)

新入会 H.Mさん (N市)

② 支部総会のお知らせ

3月11日の震災から2年がたち福島に海外からのトラベラーが少しづつ来てくれるようになりました。除染もまだ終了していない状況ですが、福島の皆さまが昔のような日常を取り戻そうと頑張っている姿をテレビを通して見て、心を動かされております。

今年は福島での支部総会を初めて開催することになりました。たくさんの会員の方々の参加をお願いします。会場の予約が2ヶ月前ということで、詳細は追ってお知らせいたします。

○ 日時 5月18日～19日 一泊

○ 宿泊及び会議場 福島県二本松市男女共生センター

③ 2013年度の支部会費納入のお願い。

3000円の納入は、今年も基本的には支部総会の時に会計係にお納めいただくことになっています。総会には参加の出来ない方は下記のゆうちょ銀行口座にお振り込みください。

名義 日本サーバス東北支部

記号 18320

番号 20842841

④ 次回支部ニュース82号の原稿をお待ちしています。

原稿送附はeメール、ハガキ、手紙等の方法でも構いません。

東北支部へのご協力よろしくお願いします。

(編集後記)

2013年が始まりまして、まだ大きな地震が心まで揺さぶります。2月1日も北海道で震度5。まだまだ油断できない状況が続きますが、どんな時も気をつけて行動したいものです。

昨年までは防災グッズをバックパックに入れて備えらしくしていましたがいつの間にかそれほど緊張感もなくなってしまうました。北海道の地震では久しぶりに揺れが長く、カウントで40を超えたのもう一度揺れが来るのでは？と身構えたほどでしたが、程なく収まりほっとしました。緊張したからといって逃げ場所などあるはずもないのですが、精神的にでも締まったほうがいいのでは？とってしまうのです。(カウントとは、地震の度に数を数えて落ち着きを取り戻す私なりの工夫です。3月11日は360までカウントしました。経験値で30の倍数をを超える度に揺れが来ていましたから。(逆に言えば、大抵の揺れは30カウントで収まっているのです)あの日には30の倍数を超えるたびに「また来る！！」と叫んで机の足にしがみついていた。)

(文責：N. T)